

R2年8月1日(土)

テーマ：見逃さない、小児・高齢者虐待
～私たち一人一人ができること～

講師：狗巻見和先生 和歌山県立医科大学附属病院
小児看護専門看護師

水主千鶴子先生 修文大学
教授

場所：看護研修センター

参加者：AM 10名
PM 11名

令和2年度は新型コロナウイルスによる感染拡大防止のために、4月から7月まで研修会を中止していた。そのため、今年度最初の研修会となった。

午前中は、狗巻先生による小児の虐待、午後からは水主先生による高齢者の虐待についての研修を実施。

新型コロナウイルスの関係か受講生が非常に少ない状況であった。

感染予防のために、講師の演台上にはアクリル板を設置。

受講生の座席は、1台の机に1名の受講生が着席。前後については、交互になるように配置して受講してもらった。



小児看護専門看護師の狗巻先生。
先生の前には、アクリル板。見えるでしょうか？
かすかに光っているのですが。。
講義では、事例紹介が多くあり、このような事例では、
どのような対応が必要かなどを教えてくれた。



高齢者の虐待では、個人ワークを取り入れて、いろいろと考えた後、発表。
マイクを教育委員が渡し、一人の発表が終わるごとに、マイクの消毒を行ってくれた。

研修会の前後では、机・椅子・マイク・
ドアノブ・アクリル板の消毒を実施して
います。



R2年8月21日(金)

テーマ：もう悩まない！深める倫理、使えるコミュニケーションスキル

講師：馬場華奈己先生 大阪市立大学医学部附属病院
精神看護専門看護師

場所：看護研修センター

参加者：70名

新人研修ということで、倫理綱領も読みながら説明してくれる。

新人研修は本日が初めての研修会で、久しぶりにあった同級生との話に盛り上がっていたが、「3密を避けて感染予防にご協力をお願いします」の声掛けに皆さんとても協力的だった。



日本看護協会の看護の将来ビジョン ~いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護~についても説明してくれる。

「とるべき行動に悩んだ経験は？」
座席の前後で話し合い。
最初はグループワークの予定だったが、密を避けるために先生が個人ワークと前後での話し合いに変更してくれた。



最後に「コミュニケーションとは、付け足しでない、それは患者ケアの要である」の言葉で締めくくってくれた。

R2年8月22日(土)

テーマ：看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版2020
～ヘルスケア提供システムにおける連携強化を実現するために～
DVD研修

ファシリテーター：中山真砂美先生(和歌山労災病院)
小松香世美先生(ひだか病院)
東田裕子先生(日本赤十字社和歌山医療センター)
藪本あゆ子先生(日本赤十字社和歌山医療センター)
稲垣伊津穂先生(名手病院)

場所：看護研修センター

参加者：63名

研修目標：効率的な業務運営と良質な看護サービスの提供を目的とした看護補助者の業務範囲や教育および就労環境について理解し、自施設における看護補助者と協働のための体制整備の一助となる



受講者は、真剣な態度
で、小ワークに取り組
んでいます

各施設では、すでに、看護補助者への研修体系が作られつつあります。



グループワークも、ソー
シャルディスタンス
議論しにくいようす